

○計画期間：平成25年12月～平成30年3月（4年4月）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成25年度終了時点（平成26年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に認定を受けた「盛岡市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了後、新たに「第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成25年11月に認定を受けた。第2期計画においては、3つの基本方針「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」に基づき、全57事業の実施により、さらなる中心市街地の活性化を目指している。

本市の中心市街地は、景気低迷による商店数や小売年間販売額の低下のほか、郊外型大規模小売店舗の影響や、各事業所数の減少、空き店舗の増加などによる吸引力の低下が見られているが、県都盛岡の中核として、地域の持続的な発展の牽引役を強く期待されている地区であり、早急に商業活性化策や観光・歴史・文化の振興策及びコンパクトで利便性の高い都市機能の充実が求められている。

平成25年度は、第1期計画の総括から、中心市街地の活性化に向けて、回遊性を向上させる必要があったことから、新規事業として「もりおかまちなか（ラリー）検定事業」を実施したほか、商店街の魅力向上のために、「もりおかまちなかゼミナール（もりゼミ）開催事業」や「商店街組織強化支援事業」等を実施している。

### 2. 平成25年度の実績等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成25年度は、目標指標である盛岡市街の宿泊観光客数やもりおか歴史文化館の入館者数が増加しており、中心市街地活性化に向けた情報発信力の向上に、一定の効果があったものと評価する。

一方、中心市街地の歩行者・自転車通行量は減少していることから、中心市街地全域の回遊性を向上させるため、引き続き計画事業を着実に実施すべきである。

なお、目標指標の達成に資するため、計画事業の取組の強化を図るとともに、国際リニアコライダー誘致関連事業、商店街共通カード導入事業など、計画に盛り込まれていない事業の熟度を高め、適宜、計画に盛り込むなど、社会経済情勢の変化に対応した計画となることを期待する。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
賑わいあふれる 中心市街地	中心市街地の歩行者・ 自転車通行量	48,332人	52,000人	46,171人	－	②
賑わいあふれる 中心市街地	大通コアエリア周辺の 居住人口	5,202人	5,400人	5,199人	－	②
訪れたいなる 中心市街地	盛岡市街の 宿泊観光客数	50.0万人	56.2万人	68.1万人	－	①
訪れたいなる 中心市街地	もりおか歴史文化館の 入館者数	25.1万人	27.0万人	28.7万人	－	③

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」については、ハード整備事業を中心に現時点では未実施の事業があることに加え、現在実施しているソフト事業において、想定していたほどの効果が発現しておらず、数値が低下している。

「大通コアエリア周辺の居住人口」については、居住利便性の向上や商店街の魅力向上に係る事業等による効果が発現しておらず、横ばいとなっているが、26年度完成予定の居住施設建設により、今後数値の増加が見込まれる。

「盛岡市街の宿泊観光客数」については、夏祭り（盛岡さんさ踊り）の来場者が増加したことや、NHKの連続ドラマが社会的なブームとなり、ロケ地である岩手県久慈市が注目されたことによる波及効果もあったものと推察される。実施予定のハード整備事業による観光施設の増加や、ソフト事業による観光客誘致促進効果により、継続して目標の達成を目指す。

「もりおか歴史文化館の入館者数」については、夏祭り（盛岡さんさ踊り）の来場者が増加したことに伴い、目標を上回る数値となっているが、各月の入館者数を前年と比較すると、減少している月があることから、事業の実施効果が十分発現していないと考えられ、引き続き効果的な取組に努める。

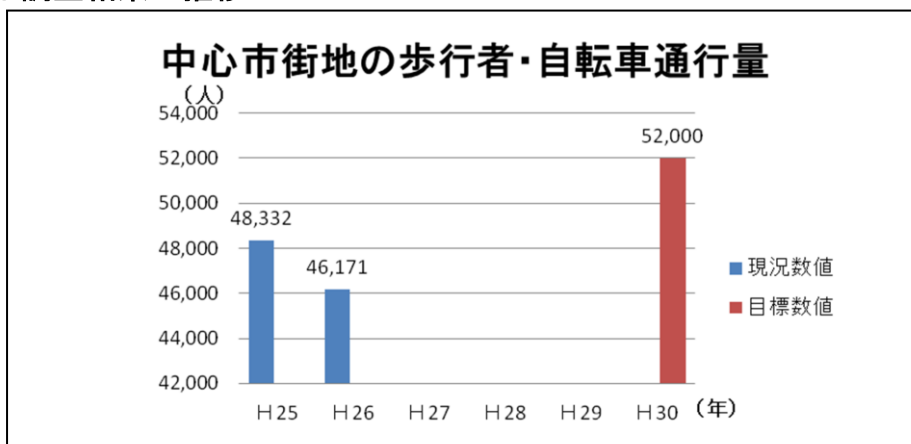
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

平成25年度認定の計画であり、前回フォローアップは実施していない。

### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画P89～P93参照

#### ●調査結果の推移



年	(人)
H25	48,332 (基準年値)
H26	46,171
H27	
H28	
H29	
H30	52,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月に実施）

※調査月：平成26年3月23日（日曜日）、24日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、2日間8地点（数値は加重平均）

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 盛岡バスセンター再整備事業（株盛岡バスセンターほか）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	現在の盛岡バスセンターを建替え、バスターミナル機能の強化を図るとともに、商業機能や公益的機能が充実した複合施設として再整備する。
事業効果及び進捗状況	平成26年度は社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）を活用し、実施設計を行う予定。本事業の実施により、盛岡バスセンターの利用者の増加と周辺地域への回遊が見込まれる。

②. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) 活用事業 (株)岩手銀行)

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店 (赤レンガ) を保存修理し、見学・展示等の施設として活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成26年度は、建物の保存修理の実施と並行して、実施設計等を行う予定。本事業の実施により、周辺地域への回遊が見込まれる。

③. (仮称) 河南地区駐車場整備事業 (盛岡まちづくり(株)ほか)

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	河南地区にある平面駐車場を立体化し、河南地区の商店街や核店舗である商業施設の利便性の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業の実施により、自家用車利用が多いと考えられる郊外・近隣都市からの来街者や、家族連れでの来街者の利便性が向上することで、河南地区への来街の増加と回遊が見込まれる。中心市街地活性化事業 (中心市市街地再興戦略) の活用を検討中。

④. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (株)中央住宅産業)

事業完了時期	平成27年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成27年度に完成予定。事業完了後は、居住人口の増加に伴い、周辺地域への回遊が見込まれる。

⑤. 八幡町地区優良建築物等整備事業 (優良建築物等整備事業) (盛岡八幡町再開発ビル建設協議会)

事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、介護機能付のマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成26年度に完成予定。事業完了後は、居住人口の増加に伴い、周辺地域への回遊が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

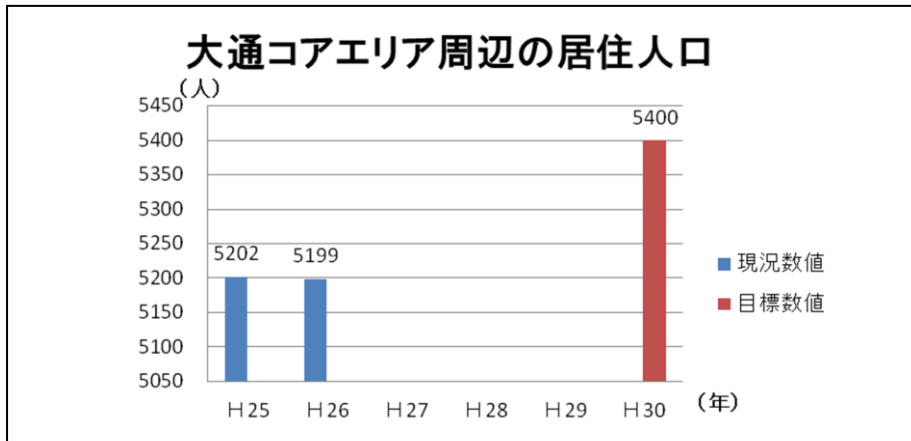
主要事業であるハード整備事業が実施中または未実施であることから、事業の効果が発現するのは、今後になることが見込まれる。一方、ソフト事業の商店街活性化事業や公共交通利用促進関連事業等は、計画どおり実施されているものの、歩行者・自転車通行量が減少しており、今後ハード整備事業の実施により、効果が発現

するものと推察される。

今後の取組としては、平成25年度から回遊性の向上を目的とした新規事業を実施しており、これらの新規事業を効果的に実施するとともに、盛岡バスセンター再整備事業などの主要事業を着実に進めていく必要がある。

「大通コアエリア周辺の居住人口」※目標設定の考え方基本計画P93～P95参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	5,202 (基準年値)
H26	5,199
H27	
H28	
H29	
H30	5,400 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成26年4月（平成26年3月末の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：大通コアエリア（大通・中央通・内丸・大沢川原・菜園地区）の居住人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（株中央住宅産業）

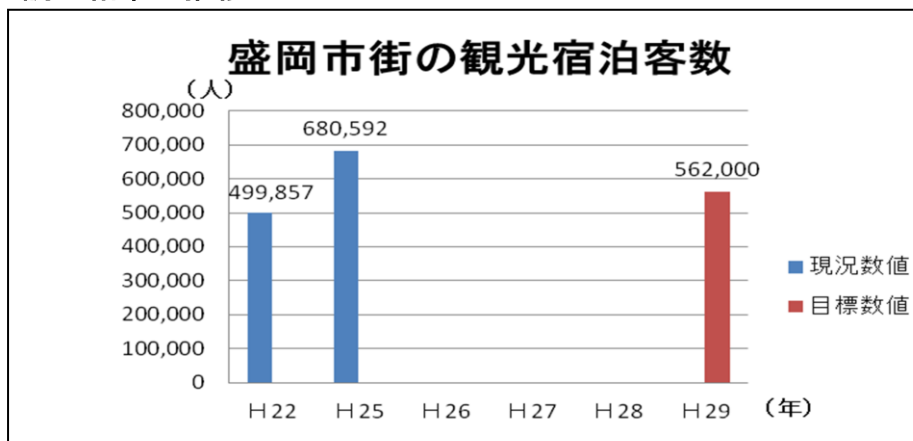
事業完了時期	平成27年度【実施中】
事業概要	土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。
事業効果及び進捗状況	事業は予定どおりに進捗しており、平成27年度に完成予定。事業完了後は、居住人口の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業であるハード整備の事業完了が、まだ先であることから、事業効果が発現するのは今後になることが見込まれるが、継続して居住環境の整備や商店街の魅力向上につながる事業を実施していく必要がある。

「盛岡市街の宿泊観光客数」 ※目標設定の考え方基本計画P96～P98参照

●調査結果の推移



年	(万人)
H22	50.0 (基準年値)
H25	68.1
H26	
H27	
H28	
H29	56.2 (目標値)

※調査方法：宿泊施設からの回答を盛岡市が集計

※調査月：平成26年3月（平成25年1月～12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：盛岡市街の宿泊施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業（株岩手銀行）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）を保存修理し，見学・展示等の施設として活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成26年度は，建物の保存修理の実施と並行して，実施設計等を行う予定。本事業の実施により，本施設への来館を目的とした観光客の盛岡市街の宿泊施設への宿泊が見込まれる。

②. 盛岡・八幡平観光圏整備事業（盛岡・八幡平広域観光推進協議会）

事業完了時期	平成26年度【実施中】
事業概要	盛岡・八幡平広域観光圏域内の関係団体での連携を強化し，滞在型の観光を展開することで，本市を含めた広域圏の魅力を向上させる。
事業効果及び進捗状況	予定どおり事業は進捗しており，盛岡・八幡平広域観光圏域内の宿泊客数の増加に伴い，盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いている。

③. 夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催（盛岡さんさ踊り実行委員会）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	伝統芸能である「さんさ踊り」を地域資源として活用し，市内外からの多くの観光客を迎えることにより，近隣の商店街の活性化及び市中心部の魅力の向上を図る。
事業効果及び	予定どおり事業は進捗しており，来場者も増加傾向にあること

進捗状況

から、盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

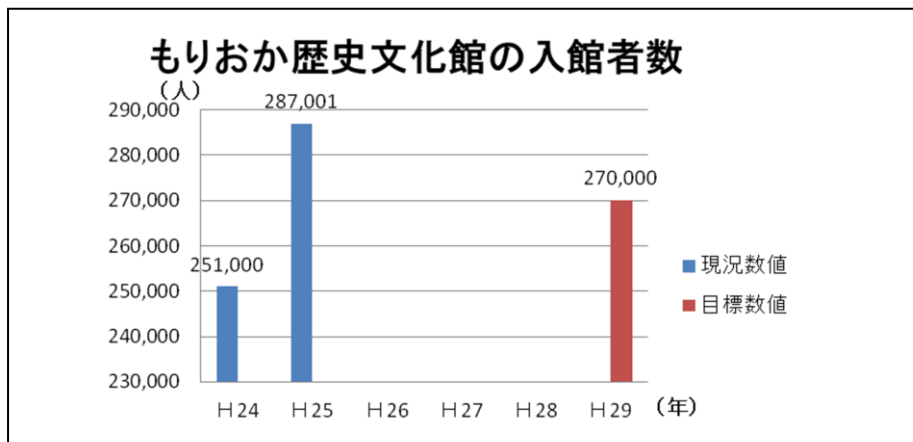
平成25年の盛岡市街の宿泊観光客数は、68.1万人と想定を大きく上回る数値となった。これは、夏まつり（盛岡さんさ踊り）の来場者の増加や、盛岡・八幡平観光県整備事業等の事業実施による効果が発現したことに加え、NHKの連続ドラマが社会的なブームとなり、ロケ地である岩手県久慈市が注目されたことによる波及効果もあったものと推察される。また、東日本大震災発生後、大きく落ち込んでいた外国人観光客の宿泊数が増加傾向に転じていることも増加した要因のひとつとして挙げられる。

この数値は一時的な要因も含まれると考えられるが、盛岡おもてなし度UP事業の実施等により、観光客リピートや口コミなどによる観光客誘致促進を図ることで、引き続き高い水準を維持できるように取組みたい。

なお、平成24年の観光消費額単価は県外宿泊客で27,589円（23年度比99.7%）とほぼ横ばい、県内宿泊客で14,755円（23年度比147.1%）と改善傾向にあるものの、東日本大震災発生前の水準までには改善していない。

「もりおか歴史文化館の入館者数」※目標設定の考え方基本計画P98～P99参照

●調査結果の推移



年	(万人)
H24	25.1 (基準年値)
H25	28.7
H26	
H27	
H28	
H29	27.0 (目標値)

※調査方法：もりおか歴史文化館への聞き取り調査

※調査月：平成26年3月（平成25年1月～12月の数字）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：もりおか歴史文化館

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	企画展や、学校等と連携した事業の実施により、盛岡城跡や周辺城下町魅力的な観光資源として機能させ、市民や観光客等の回遊による賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	予定どおり事業は進捗しており、年間の入館者数は増加しているが、月別の入館者数で比較した場合、前年に比べ入館者数が

減少傾向にあることから、事業の充実を図る必要がある。

②. まちなか情報センター運営事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめとする市内のイベントや商店街等に関する情報を提供し、中心市街地のまち歩きの拠点とすることにより、市民や観光客の回遊性を高め、中心市街地の活性化を図る。
事業効果及び進捗状況	予定どおり事業は進捗しており、年間の入館者数は増加している。また、周辺の観光施設の入込数も増加していることから情報発信の拠点としての効果が発現していると考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成25年のもりおか歴史文化館の入館者数は、28.7万人と想定以上の数値であった。月ごとの入館者数を比較すると、前年に比べ8月の入館者数が大きく増加していることから、夏祭り（盛岡さんさ踊り）の来場者数の増加に伴い、入館者数が増加したものと推察される。一方、8月以外の月は、前年の同月に比べ減少している月の割合が高いことから、今後は、もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業等の推進により、各月の入館者数を増加させていくことで、目標数値の達成を目指すこととする。

なお、歴史文化館周辺に位置する施設の平成25年の入込数は、「盛岡市観光情報プラザ」で29,388人（24年34,410人）と減少したものの、「野の花美術館」6,270人（24年6,082人）、「啄木賢治青春館」45,634人（24年45,009人）と入込数が増加していることから、まちなか情報センターの情報発信機能効果が徐々に発現しており、中心市街地の回遊性の向上に結び付いているものと思料される。